

二〇一二	七	尊氏直義ヲ殺ス○北朝後光嚴天皇即位。
二〇一八	一三	義興矢口ニ死ス○尊氏病死ス○義詮將軍トナル○菊池武光懷良親王ヲ奉ジテ大友氏ヲ討ツ。
二〇二七	二二	元亡ビ明オコル。
二〇二八	二三	長慶天皇即位○義滿將軍トナル。
二〇二九	二四	後龜山天皇即位。
二〇三一	建徳二	邊民明ヲオカス。
二〇三三	文中二	明使ハジメテ將軍ニ謁ス。
二〇三八	天授四	義滿新第ヲ室町ニイトナム。
二〇五二	元中九	兩朝合一ス○後小松天皇即位。
二〇五四	應永元	義持職ヲツグ。

二〇五五	二	義滿剃髮ス○世人義滿ヲ公方トヨブ。
二〇五六	三	三管四職ヲオク。
二〇五七	四	義滿金闍寺ヲ立ツ。
二〇五八	五	滿兼關東管領トナル。
二〇五九	六	滿兼大内義弘ト叛ス、義弘戰死ス。
二〇六二	九	明主義滿ヲ日本國王ニ封ズ。
二〇六八	一五	義滿薨ズ○義持將軍トナル。
二〇六九	一六	持氏關東管領トナル。
二〇七二	一九	稱光天皇即位。
二〇八三	三〇	義持辭シ義量職ヲツグ。

二〇八五	三二	義量薨シ義持再ビ職ヲツグ。
二〇八八	正長元	後花園天皇即位。
二〇八九	永享元	義教職ヲツグ。
二〇九八	一〇	幕府大學シテ持氏ヲ討ツ。
二〇九九	一一	持氏自殺ス〇上杉氏關東管領トナル。
二一〇〇	一二	【後花園帝ノ中年。】
二一〇一	嘉吉元	赤松滿祐義教ヲ弑ス〇義勝職ヲツグ〇滿祐自殺ス。
二一〇三	三	將軍義勝薨シ義政職ヲツグ。
二一〇五	文安二	畠山持國管領ヲヤメ細川勝元之ニ代ル。
二一二四	寛正五	後土御門天皇即位〇義政義視ヲ子トナス。

二一二七	應仁元	細川勝元山名宗全ト京都ニ戦フ。
二一三三	文明五	山名宗全卒ス〇將軍義政辭シ義尙職ヲツグ〇細川勝元卒ス。
二一三七	九	東西兩軍オノノ國ニ歸ル〇京都荒廢ス〇畠山長政管領トナル。
二一四三	一五	銀閣寺成ル。
二一四五	一七	德政ヲ行フ〇翌年又之ヲ行フ。
二一四七	長亨元	伊勢長氏始メテ今川氏ニ仕フ。
二一四九	延徳元	將軍義尙薨ズ〇德政ヲ行フ。
二一五〇	二	義政薨ズ〇義植職ヲツグ。
二一五一	三	政知ソノ子茶々丸ニ殺サル〇伊勢長氏(北條早雲)伊豆ヲ取ル。
二一五三	明應二	政元將軍ヲ廢シ義植越中ニ走ル。

二一五四	三	政元管領トナル○義澄職ヲツグ。
二一五五	四	早雲小田原城ヲトル。
二一五九	八	義植周防ニワシル。
二一六〇	九	天皇崩ズ御柩ヲ黒戸ニオクコト四十餘日○後柏原天皇踐祚。
二一六一	文龜元	義植官爵ヲケツラル。
二一六七	四	政元ソノ家宰ニ弑セラル○澄元管領トナル○三好氏始メテ顯ル。
二一六八	五	義興義植ヲ奉ジテ東上ス○義植職ニ復ス。
二一六九	六	義澄江州ニワシル、翌々年薨ズ。
二一七三	一〇	陶工祥瑞五郎大夫明ヨリカヘル。
二一八一	大永元	始メテ即位式ヲ行ハル○細川高國將軍ヲ廢立ス○義植走り義晴職ヲツグ。

二一八四	四	北條氏綱江戸城ヲ取ル。
二一八六	六	後奈良天皇踐祚。
二一九〇	享祿三	ポルトガルノ船始メテ豊後ニ來タル。
二一九一	四	三好元長細川晴元ヲ奉ジ管領高國ヲ攻メ殺ス。
二一九二	天文元	晴元管領トナル○晴元元長ヲ殺ス。
二一九六	五	即位ノ禮ヲ行ハル。
二二〇〇	九	(後奈良帝ノ中年)○北條氏康上杉憲政ヲ破ル○當時邊民朝鮮支那ノ沿海ヲカスム、其船ヲバ八幡船ト云フ。
二二〇一	一〇	毛利元就尼子晴久ヲ破ル○ポルトガル船豊後ニ漂着ス。
二二〇三	一二	ポルトガル人鳥銃ヲ傳フ。
二二〇六	一五	氏康兩上杉ヲ破ル○義輝將軍トナル。

二二〇八	一七	武田信晴信濃ヲ略ス。
二二〇一	二〇	陶晴賢ソムキ大内義隆自殺ス。
二二〇三	二三	川中島ノ戦○景虎入朝。
二二〇四	二三	毛利元就兵ヲアゲ。
二二一五	弘治元	元就晴賢ヲ誅ス。
二二一六	二	川中島ノ戦。
二二一七	三	正親町天皇踐祚。
二二一八	永祿元	秀吉信長ニ仕フ。
二二二〇	三	即位ノ禮ヲ行ハル○桶狭間ノ戦。
二二二一	四	川中島ノ戦○松永久秀三好義長ヲ弑ス○輝虎氏康ヲ小田原ニ伐ツ。

二二二二	五	信長密詔ヲタマハル。
二二二三	六	氏康里見氏ヲ鴻臺ニヤブル。
二二二四	七	信長美濃ヲ取ル。
二二二五	八	久秀將軍義輝ヲ弑ス○織田氏武田氏ト婚ス。
二二二六	九	始メテポルトガル人ノ居留ヲ長崎ニ定ム○元就尼子氏ヲ降ス。
二二二七	一〇	信長再ビ詔書ヲタマハル。
二二二八	一一	義榮職ヲツグ○信長義昭ヲ奉ジテ入京ス○義榮薨ズ○義昭將軍トナル○信長南蠻寺ヲ造ル。
二二三〇	元龜元	姊川ノ戦○信長本願寺ト戦フ○氏康卒ス。
二二三一	二	元就卒ス○信長叡山ヲ焼ク○長崎ヲ互市場トナス。
二二三二	三	天主教大ニ九州ニ行ハル。

二二三三	天正元	信玄卒ス後五年謙信卒ス○信長將軍義昭ヲ幽ス○信長淺井朝倉ヲ亡ボス。
二二三七	五	信長久秀ヲ誅ス○秀吉播磨ヲ略ス。
二三四二	一〇	天目山ノ戰○本能寺ノ變○秀吉毛利氏ト和ス○秀吉光秀ヲ誅ス○家康甲信二國ヲ取ル。
二三四三	一一	賤ヶ岳ノ戰○信孝死ス○秀吉大阪ニ城ヅク。
二三四四	一二	信雄家康ニヨル○小牧山ノ對陣○長久手ノ戰○大阪城成ル○秀吉信雄ト和ス。
二三四五	一三	秀吉南蠻寺ヲ廢シ天主教ヲ禁ズ○秀吉四國ヲ定ム○秀吉關白ニ任ズ○秀吉五奉行ヲオク。
二三四六	一四	秀吉妹朝日姫ヲ家康ニメアハス○後陽成天皇即位○秀吉太政大臣ニ任ジ姓ヲ豊臣ト改ム○方廣寺成ル。
二三四七	一五	秀吉島津義久ヲ降ス○家康入朝。
二三四八	一六	天皇上皇聚樂第ニ幸ス。
二三四九	一七	伊達政宗會津ヲトル。

二二五〇	一八	政宗秀吉ニ謁ス○秀吉北條氏直ヲ降ス○家康江戸城ニ入ル○秀吉家康ニ關八州ヲ與フ。
二二五一	一九	千利休殺サル○秀吉關白職ヲ秀次ニ譲リ自ラ太閤ト稱ス。
二二五二	文祿元	秀吉大兵ヲ發シテ朝鮮ヲ征ス○朱印船ヲオキ安南ニ貿易ス。
二二五三	二	碧蹄關ノ戰○家康江戸ニ築ク。
二二五四	三	秀吉伏見城ニウツル。
二二五五	四	秀吉令ヲ下シテ天下ノ田ヲ檢ス○秀次自殺ス。
二二五六	慶長元	秀吉明使ヲ追ヒテ再征ヲ命ズ。
二二五七	二	秀吉再ビ朝鮮ヲ征ス○蔚山ノ戰。
二二五八	三	秀吉薨ズ○家康外征軍ヲ召シカヘス。
二二五九	四	前田利家五奉行等ト共ニ家康ノ專横ヲセム○利家薨ズ。

二二六〇	五	家康上杉景勝ヲ討ツ○石田三成兵ヲアゲ○伏見城陥ル○關原ノ戰○ 蘭船堺浦ニ來タル。
二二六一	六	藤原愷富博士トナル○金銀制ヲ改ム○朱印船額ヲ定ム○安南來聘ス。
二二六三	八	家康征夷大將軍トナリ、秀頼内大臣ニ任ゼラル。
二二六四	九	諸大名ノ質ヲ江戸ニオク。
二二六五	一〇	山田長政シアムニ入ル○朝鮮ト和ス○家康職ヲ秀忠ニ讓ル。
二二六七	一二	家康駿府ニ老ス。
二二六九	一四	關西大名ノ人質ヲ檢シテ江戸ニアツム○諸大名ニ令シテ五百石積以 上ノ大船ヲ造ルコトナカラシム。
二二七一	一六	後水尾天皇即位。
二二七二	一七	天主教ヲ嚴禁ス。
二二七三	一八	幕府老中ヲオク○伊達政宗使ヲローマニヤル。

二二七四	一九	十一月大阪冬役、十二月和ス。
二二七五	元和元	大阪夏役○豊臣氏亡ブ。
二二七六	二	家康太政大臣トナリツイデ薨ズ○支倉常長英人ニ託シテ政宗ニ通信 ス。
二二七九	五	天主教徒ヲ京都五條磔ニテ火刑ス。
二二八三	九	家光將軍トナル○天主教ヲ嚴禁ス。
二二八四	寛永元	秀忠ノ女宮中ニ入ル。
二二八六	三	山田長政戰艦圖ヲ淺間社ニ獻ズ。
二二八九	六	僧澤庵等ヲ出羽ニ流ス○明正天皇即位。
二二九三	一〇	苦年寄ヲオク。
二二九四	一一	大老職ヲオク。

二三九七	一四	島原ノ亂オコル。
二三九八	一五	島原ノ亂平グ。
二三〇〇	一七	【明正帝ノ晩年。】翌年日光廟成ル。
二三〇三	二〇	後光明天皇即位○家光乳母春日局卒ス。
二三〇六	正保三	鄭芝龍タスケヲ乞フ。
二三一一	四	家光薨ズ○家綱將軍トナル。
二三一四	承應三	後西院天皇踐祚。
二三一八	萬治元	朱成功タスケヲ乞フ。
二三二三	三	靈元天皇即位。
二三四〇	延寶八	綱吉將軍トナル。

二三四七	貞享四	東山天皇踐祚。
二三五二	元祿五	徳川光圀楠公ノ碑ヲ立ツ。
二三六一	一四	淺野長矩吉良義央ヲキズツク。
二三六二	一五	大石良雄等義央ヲ殺ス○翌年良雄等死ヲ賜ハル。
二三六九	寶永六	家宣職ヲツグ○中御門天皇踐祚。
二三七〇	七	新井白石讀史餘論ヲアラハス。
二三七一	正徳元	白石朝鮮使節ニ接ス。
二三七二	二	家繼職ヲツグ○翌年貝原益軒歿ス。
二三七五	五	大日本史成ル。
二三七六	享保元	吉宗職ヲツグ。

二三八五	一〇	新井白石卒ス○後三年荻生徂徠歿ス。
二三九五	二〇	櫻町天皇即位○金銀諸幣ヲ改鑄ス。
二三九九	四	青木昆陽幕府ノ蘭學員トナル。
二四〇〇	五	【櫻町帝ノ中年。】
二四〇四	延享元	昆陽甘藷ヲ東國ニ植ウ。
二四〇五	二	家重職ヲツグ。
二四〇七	四	桃園天皇即位。
二四〇九	寛延二	賀茂真淵大ニ國學ヲトナフ。
二四一一	寶曆元	吉宗(有徳公)薨ズ。
二四一八	八	竹内式部捕ハル。

二四二〇	一〇	家治職ヲツグ。
二四二二	一一	後櫻町天皇踐祚。
二四二七	明和四	山縣大貳梟セラレ、竹内式部流サル。
二四三〇	七	後桃園天皇踐祚○翌年賀茂真淵歿ス。
二四三二	安永元	田沼意次老中トナル○江戸大火アリ。
二四三九	八	光格天皇踐祚。
二四四二	天明二	群書類聚成ル○我民露國ニ漂着ス。
二四四四	四	天下大ニ飢ユ○田沼意知斬ラル。
二四四六	六	意次退ケラル○家齊將軍トナル。
二四四七	七	松平定信老中トナル○幕府米澤城主上杉治憲ガ治績ヲ賞ス。

二四四九	寛政元	露人北蝦夷ニ來タル。
二四五二	四	林子平禁錮セラル○翌年高山正之自殺ス○露人松前ニ來リテ通商ヲ請フ。
二四五三	五	露使來タリテ互市ヲ請フ○定信職ヲ辭ス。
二四六四	文化元	露再ビ通商ヲ請フ。(○應舉、本居宣長等數年前ニ歿シヌ。)
二四六六	三	露艦蝦夷ニアダス
二四六七	四	露人北邊ニ寇ス○松前奉行ヲオク。
二四六八	五	英船長崎ヲカスム○保己一歿ス○砲臺ヲ品川沖ニキヅク。
二四七三	一〇	高田屋嘉兵衛ニヨリテ日露葛藤一時停ム。
二四七七	一四	仁孝天皇即位。
二四七八	文政元	英艦浦賀ニ來タル。

二四八一	四	伊能忠敬實測圖ヲ作ル。
二四八四	七	英船薩摩寶島ニアダス。
二四八五	八	諸國ニ令シテ異船ノ岸ニ近ツクモノヲ避タシム。
二四八七	一〇	家齊太政大臣トナル○後二年ニシテ定信歿ス。
二四九二	天保三	徳川齊昭海防術ヲ講ズ○頼山陽歿ス。
二四九七	八	家慶職ヲツグ。
二四九八	九	渡邊登高野長英トモニ外寇ヲ論ズ○翌年此等ノ人々ヲ獄ニ下ス。
二五〇〇	一一	【仁孝帝ノ晩年。】
二五〇四	弘化元	徳川齊昭オヨビソノ臣藤田東湖等ノ水戸名士幽セラル。
二五〇五	二	水野忠邦老中ヲ辭ス○米船浦賀ニ來タル○英艦長崎ニ來タル。

二五〇六		三	孝明天皇踐祚○米艦二艘來タツテ通商ヲ乞フ。
二五〇九	嘉永二		英人浦賀ニ來タル。
二五二三		六	米使ヘルリ浦賀ニ來タル○露使長崎ニ來タル○家定將軍トナル。
二五一四	安政元		米使ヘルリ再ビ浦賀ニ來タル○和親條約ヲ結ブ。
二五一六		三	米使ハルリス下田ニ來タル。
二五一七		四	井伊直弼大老トナル○朝議開港ヲユルサズ。
二五一八		五	米露英佛蘭ト通商條約ヲ締結ス○家茂將軍トナル○安政ノ獄オコル。
二五一九		六	徳川齊昭ヲ幽ス○頼三樹吉田松陰等斬ラル。
二五二〇	萬延元		井伊直弼櫻田門外ニ殺サル○齊昭薨ズ。
二五二一	文久元		皇妹親子内親王降嫁。

二五二二		二	安藤信正要鑿セラル。
二五二三		三	家茂入朝ス○長人外國船ニ發砲ス○七卿長州ニ走ル○生麥事件落着。
二五二四	元治元		佐久間象山斬ラル○將軍上洛ス○幕府長州ヲ征ス○外國兵赤間關ニアダス。
二五二五	慶應元		英米佛露蘭ノ諸國トノ假條約ヲ勅許セラル○將軍家茂薨ズ。
二五二六		二	幕軍長州ヲ討ツテ勝タズ○慶喜將軍トナル。
二五二七		三	孝明天皇崩御シ、今上天皇踐祚シ給フ○攝關以下ノ舊職ヲ廢シテ三職ヲオク。
二五二八	明治元		伏見鳥羽ノ戰○五條ノ御誓文ヲ發シタマフ○慶喜水戸ニ退ク○榎本釜次郎函館ニ逃レ大鳥圭介東北ニ走ル○官軍彰義隊ヲ討ツ○今上天皇即位ノ大禮ヲ行ハセラル○初メテ各國公使ヲ朝見ス○江戸ヲ東京ト改ム○東北鎮定○車駕東京ニ幸ス○車駕還幸セラル。
二五二九		二	列藩藩籍ヲ奉還ス○公卿諸侯ノ稱ヲ廢シテ華族トス○車駕再ビ東京ニ幸シ永ク帝都ト奠ム○官軍函館ヲ平定ス。
二五三一		四	廢藩置縣ノ制○大使ノ一行歐米ニオモムク○散髮廢刈令出ヅ○郵便局ヲ設ク。

二五三二	五	京濱間ノ鐵道成ル○征韓論オコル○徵兵令發布○大陰曆ヲ廢シ太陽曆ヲ用フ。
二五三三	六	學制ヲ改正ス○全國ノ地租ヲ改正ス○大使歸朝○征韓論破裂。
二五三四	七	民選議院設立ノ建議出ヅ○臺灣征伐○江藤新平佐賀ニ亂ヲナス。
二五三五	八	樺太ヲ千島ト交換ス。
二五三六	九	士民ノ帶刀ヲ禁ズ○神風連ノ變アリ○前原一誠山口ニ亂ヲナス。
二五三七	一〇	天皇京都ニ幸ス○西郷隆盛亂ヲナス(西南ノ役)
二五三八	一一	大久保利通島田一郎ニ殺サル。
二五四一	一四	國會開設ノ詔下ル。
二五四四	一七	朝鮮ニテ日清ノ兵衝突ス。
二五四五	一八	内閣組織成ル○天津條約成ル。

二五四九	二二	嘉仁親王ヲ皇太子ニタ、セラル○憲法發布。
二五五〇	二三	第一回帝國議會召集セラル○條約改正ニツキテ議論沸騰ス。
二五五四	二七	日英條約批准○日清戰役。
二五五五	二八	日清媾和條約成ル○出征軍凱旋ス。
二五五九	三二	改正條約實施。
二五六〇	三三	清國ニ義和團オコル○各國ハ兵ヲ清國ニ送ル○北京城陷落ス。
二五六一	三四	媾和成リ北清平和ニ歸ス。
二五六二	三五	日英同盟成ル。
二五六四	三七	日露戰端ヲ開ク○我軍大ニ露軍ヲ遼陽奉天沙河ニ敗ル。
二五六五	三八	族順開城○露國艦隊全滅○大觀兵式○第二日韓協約成ル。

二五六六	三九	諸軍凱旋○大觀兵式。
二五六七	四〇	日佛協商・日露協商成ル ○第三日韓協約成ル ○韓皇太子來學 ○第二回萬國平和會議。
二五六八	四一	桂内閣成ル。
二五六九	四二	伊藤公薨ス。
二五七〇	四三	韓國併合○新關稅實施。
二七七一	四四	西園寺内閣成 ○日英協約更改 ○清國內亂。
二五七二	四五	
二五七三	四六	

最近五年間 諸學校入學試驗問題集
四十年 度

- 一、上古ニ於ケル大臣家及大連家ノ盛衰
- 二、建武中興ノ成敗
- 三、神奈川條約ノ大要及ヒ其ノ締結ノ由來
- 四、次ノ稱呼ノ説明 (イ)御朱印船 (ロ)國分寺 (以上高師)
- 五、王朝末ニ於ケル武權勃興ノ主ナル原因ヲ説明スベシ
- 六、次ノ諸項ノ説明 (a)本地垂迹 (b)德政 (c)莊園 (以上神戸高商豫科第一部)
- 七、日清戰爭ノ原因如何
- 八、次ノ人ニツキテ歷史上著シキコトヲ書ケ (イ)王仁 (ロ)原田孫七郎 (以上山口高商)
- 九、賴朝ノ開ケル幕府ノ組織ヲ述ベヨ
- 一〇、御朱印船トハ如何
- 一一、明治十八年ニ締結セラレタル天津條約ニツキ知ル所ヲ記ルセ (以上海軍機關學校)

一二、次ノ項ヲ説明セヨ (イ)室町幕府ノ職制 (ロ)伏見鳥羽ノ戰 (ハ)支倉常長ノ事蹟
(士官候補生採用試験)

一三、我國上古ノうち・かばれニ就キテ略説セヨ

一四、佛教東漸ニツキ略説セヨ (假設檢定問題)

一五、足利時代ノ我國外寇ノ概況ヲ記セ (名古屋高工)

一六、廢藩置縣ノ顛末ヲ述ベヨ

一七、次ノ事項ニツキテ記セ (イ)征夷大將軍 (ロ)鄭成功 (以上高等學校)

一八、慶長年間(紀元二二五六—二二七四)ニ於ケル日本、支那、西歐ノ國狀ヲ述ベヨ

一九、藤原兼實ノ事蹟 (以上東京高商)

二〇、建武中興事業ノ成立竝ニ其廢頽ノ次第ヲ述ベヨ

二一、次ノ地名人名ニツキテ記ルセ

安土 島原 衣川 猿島 種子島

阿倍比羅夫 水野忠邦 林子平 北條早雲 新井白石

二二、次ノ事實ノ年代ヲ問フ(但紀元何年ト答フベシ)

蘇我氏ノ滅亡 奈良奠都 南北朝ノ合一 豐臣秀吉ノ天下一統 (以上女子高師)

二三、奈良時代ニ於ケル歴史竝ニ地誌ノ撰修ニツキ記セ

二四、次ノ人々ノ事蹟 松平定信 紀貫之 徳川光圀 (女子高師)

二五、豐臣秀吉ノ朝鮮征伐ノ失敗ハ何ニ原因スルヤ (海軍兵學校)

四十一年度

二六、雄略天皇ノ御事蹟

二七、武士ノ興起

二八、足利持氏ノ亂

二九、次ノ人々ノ事蹟 (イ)藤原忠通 (ろ)菊池武朝 (ハ)水野忠邦 (以上高師)

三〇、承久ノ亂 (外國語學校)

三一、江戸幕府ノ制度

三二、大内義興ノ略歴 (以上山口高商)

三三、隋、唐、宋、明ト我邦トノ交通ニ就キ我邦ノ文化ニ及ボシタル事蹟ヲ歴舉セヨ

- 三四、鎌倉幕府ノ制度 (商船學校)
- 三五、次ノ諸項ニツキ知ル所ヲ記セ (い)倭寇 (ろ)八幡船 (は)參觀交替 (に)蕃所調所 (ほ)莊園
- 三六、徳川時代ニ於ケル大名ノ種類及ヒ諸大名配置ノ方針ヲ問フ (海軍機關學校)
- 三七、水野忠邦ノ天保改革ニ就テ知ルコトヲ記セ
- 三八、足利義政ノ事蹟 (音樂學校)
- 三九、參觀交代トハ何ゾヤ (同上)
- 四〇、支倉常長 (以永式目)ニツキテ問フ (第七高等學校)
- 四一、徳川幕府ガ鎖國政策ヲ取ルニ至リシ次第
- 四二、日本府 駿府ニツキテ記ルセ (第八高等學校)
- 四三、大阪冬陣並ニ夏陣ノ原因ヲ問フ
- 四四、租庸調 近藤守重ニツキテ記ルセ (第一高等學校)

四十二年 度

- 四五、杉田玄白ニツキテ記ルセ (外國語學校)
- 四六、次ノ地ニ關スル顯著ナル事蹟 (い)難波 (ろ)膽澤 (は)安土
- 四七、室町時代ニ於ケル制度ノ大要
- 四八、寛政ノ治
- 四九、次ノ人々ノ事蹟 蘇我滿智 太安麻呂 伊能忠敬 (以上高等師範學校)
- 五〇、初メテ我國ニ來リシ白人種ハ何々國人ナリシカ而シテ夫レ等ノ顛末ヲ略記セヨ (商船學校)
- 五一、寛永年間ニ起リシ本邦鎖國ノ由來ヲ説明セヨ
- 五二、次ノ二項ヲ説明セヨ 貞永式目 三浦安針ノ事蹟 (神戸高商)
- 五三、我邦政治變遷ノ大要ヲ記セ (海軍機關學校)
- 五四、我國蘭學ノ由來ヲ記セ (第七高等學校)
- 五五、中臣鎌足ニツキテ記ルセ (山口高商)
- 五六、大化改新
- 五七、徳川吉宗ノ治蹟

- 五八、藤原兼實ニツキテ記ルセ (専門學校檢定試験)
- 五九、安政五年外國條約締結ノ由來ヲ記セ
- 六〇、倭寇ニツキテ記ルセ (高等學校)
- 六一、次ノ各項ニツキテ説明セヨ (イ)承久ノ亂 (ロ)耶蘇教カ我國ニ傳來シテヨリ其禁絶セラルルニ至ルマテノ變遷 (ハ)徳川吉宗ノ治蹟 (地方幼年學校)
- 六二、次ノ各項ニツキテ説明セヨ (イ)徳川幕府初世ニ於ケル對諸侯策 (ロ)藏人所 (ハ)近藤守重 (士官學校)
- 六三、次ノ事項ヲ略述セヨ (イ)鎌倉徳川兩時代ノ士風 (ハ)徳川氏ノ鎖國政策ヲ取リシ始末 (海軍主計候補生)
- 六四、徳川家光 徳川家茂ノ事蹟 (商船學校)
- 六五、大化改新ヲ略記セヨ
- 六六、室町幕府時代ニ於ケル外國貿易ノ狀況ヲ問フ
- 六七、院政ニツキ記ルセ (海軍兵學校)

四十三年度

- 六八、四道將軍ノ任命及其ノ功績
- 六九、承久ノ亂及ヒ其ノ後ノ鎌倉幕府
- 七〇、次ノ人々ノ事蹟 (イ)藤原忠平 (ロ)藤原胤 (ハ)足利成氏 (ニ)比企能員 (以上外國語學校)
- 七一、維新ノ原因ヲ問フ (以上美術學校)
- 七二、明治三十七八年戰役ノ原因
- 七三、我國條約改正ノ沿革
- 七四、我國蘭學ノ興起ト開國說 (士官候補生試験)
- 七五、關ヶ原ノ戰
- 七六、源義家
- 七七、安政大獄
- 七八、次ノ地ノ所在府縣廳名ヲ舉ゲ歴史上著名ナル事項ヲ記ルセ 桶狹間(桶狹) 壇ノ浦

金剛山 衣川 五稜廓 (幼年學校)

七九、足利義滿ノ外交ヲ問フ

八〇、鎖港ヲ始メタルハ徳川氏ノ何時代ナルカ又ソノ理由ヲ問フ (以上海軍機關學校)

八一、山田長政ノ事蹟ノ擧ケヨ

八二、樺太ニ關スル日露兩國交渉ノ顛末ヲ記セ

八三、次ノ事項ニツキテ記ルセ (イ)建武中興 (ロ)安政元年神奈川條約 (ハ)倭寇

(以上海軍經理學校)

八四、徳川時代ニ於ケル尊王論ノ發達ヲ述ベヨ

八五、次ノ項ニ就キテ知ル所ヲ記セ (イ)院政 (以上高等學校)

八六、寛政ノ治

八七、下田ニツキテ記ルセ (以上七高)

八八、徳川幕府ノ倒レタル原因ヲ列記セヨ

八九、本年ハ西洋紀元ニテ何年ニ當リ日本紀元ニテ何年ニ當ルカ

九〇、次ノ人ニツキテ記ルセ (イ)支倉常長 (ロ)伊能忠敬 (以上農科大學豫科)

九一、北畠親房ハ如何ナル人ゾ (山口高商)

九二、大寶令ヲ説明シ我カ史上ニ於テ其重要ナル所以ヲ述ベヨ

九三、安政ノ大獄ヲ説明セヨ (以上神戸高商)

九四、建武中興ト明治維新トヲ簡單ニ比較評論セヨ

九五、次ノ事項、人ニツキテ記セ (イ)生麥ノ變 (ハ)山田長政 (以上海軍兵學校)

九六、徳川光圀ノ事蹟 (商船學校)

四十四年度

九七、天武天皇ノ御事蹟

九八、承久以後北條氏執權時代ノ將軍

九九、次ノ人々ノ事蹟 (イ)葛城襲津彦 (ロ)足利政知 (ハ)三浦義明 (ニ)杉田玄白

(以上高等師範學校)

一〇〇、唐宋文物ト我邦文化トノ關係

一〇一、水戸黃門 木戸孝九ニツキテ記ルセ (以上美術學校)

- 一〇二、藤井右門ノ事蹟 (以上東京外國語學校)
 - 一〇三、日本カ初メテ韓土ニ於ケル文明ノ影響ヲ受ケタル狀況ヲ述ベヨ
 - 一〇四、次ノ事項ヲ問フ (イ)三奉行 (ロ)版籍奉還 廢藩置縣 (以上神戸高商)
 - 一〇五、班田收授法 (以上長崎高商)
 - 一〇六、新田義貞 北畠親房 北條高時ノ事蹟 (以上小樽高商)
 - 一〇七、大化ノ改革ノ要旨及ヒ之ニ關與セル重要人物ノ名ヲ記ルセ
 - 一〇八、次ノ人々ニツキ知ル所ヲ記セ 阿直岐 阪上田村麿 北畠親房 伊能忠敬 支倉常長 (以上上海軍機關學校)
 - 一〇九、鎌倉幕府ノ創立及其制度ヲ説明セヨ
 - 一一〇、日本ニ於ケル立憲政體確立ノ來歴ヲ陳ベヨ
 - 一一一、次ノ諸項ヲ每項五十字以内ヲ以テ簡明ニ説ケ (イ)ペリーノ初テ日本ニ來レル年 代ヲ日本ノ年號ニテ (ロ)室町時代 (以上上海軍經理學校)
 - 一一二、源氏興起ノ因由
 - 一一三、明治維新後ニ於ケル本邦ト朝鮮トノ關係ノ概要
 - 一一四、徳川齊昭 (以上士官候補生)
 - 一一五、牛麥事件 桶狭間ノ戰 徳川光圀ニツキテ説明セヨ
 - 一一六、本邦著名ノ皇居五(現皇居ヲ除ク)ト其所在國名トヲ其遷移セシ年代順ニ列舉シ且之ヲ創建シ給ヒシ天皇ノ御稱號ヲ記セ (以上地方幼年學校)
 - 一一七、徳川時代ニ於ケル海外交通ノ狀況如何 (高等學校)
 - 一一八、室町幕府ノ制度
 - 一一九、日本ノ歐洲ニ知ラレタル始因 (陸軍經理學校)
 - 一二〇、西曆紀元ヲ神武天皇即位紀元ニ換算スル方法如何
 - 一二一、又西曆紀元初世紀ハ支那ノ何頃ニ當ルカ (東京高商)
 - 一二二、世介現時ノ形勢ヲ略述セヨ
 - 一二三、次ノ事項ヲ説明セヨ (イ)五條ノ御誓文 (ロ)倭寇 (東北帝國大學農科大學)
 - 一二四、室町幕府ノ四職ノ名ヲ記セヨ
 - 一二五、次ノ事項ノ年代 (イ)大政奉還 (ロ)我國憲法ノ發布 (ハ)第二回日英同盟
 - 一二六、次ノ人物ニツキ尤モ簡單ニ記セヨ (イ)空海 (ロ)宇田川玄真 (以上上海軍兵學校)
- 以上

明治四十五年二月廿五日印刷
明治四十五年三月一日發行

日本歷史圖說
定價金參拾五錢

著者

教科研究會

發行者

東京市日本橋區本銀町三丁目八番地
林 甲子太郎

印刷者

東京市麴町區飯田町二丁目六十八番
遠 藤 廉 治

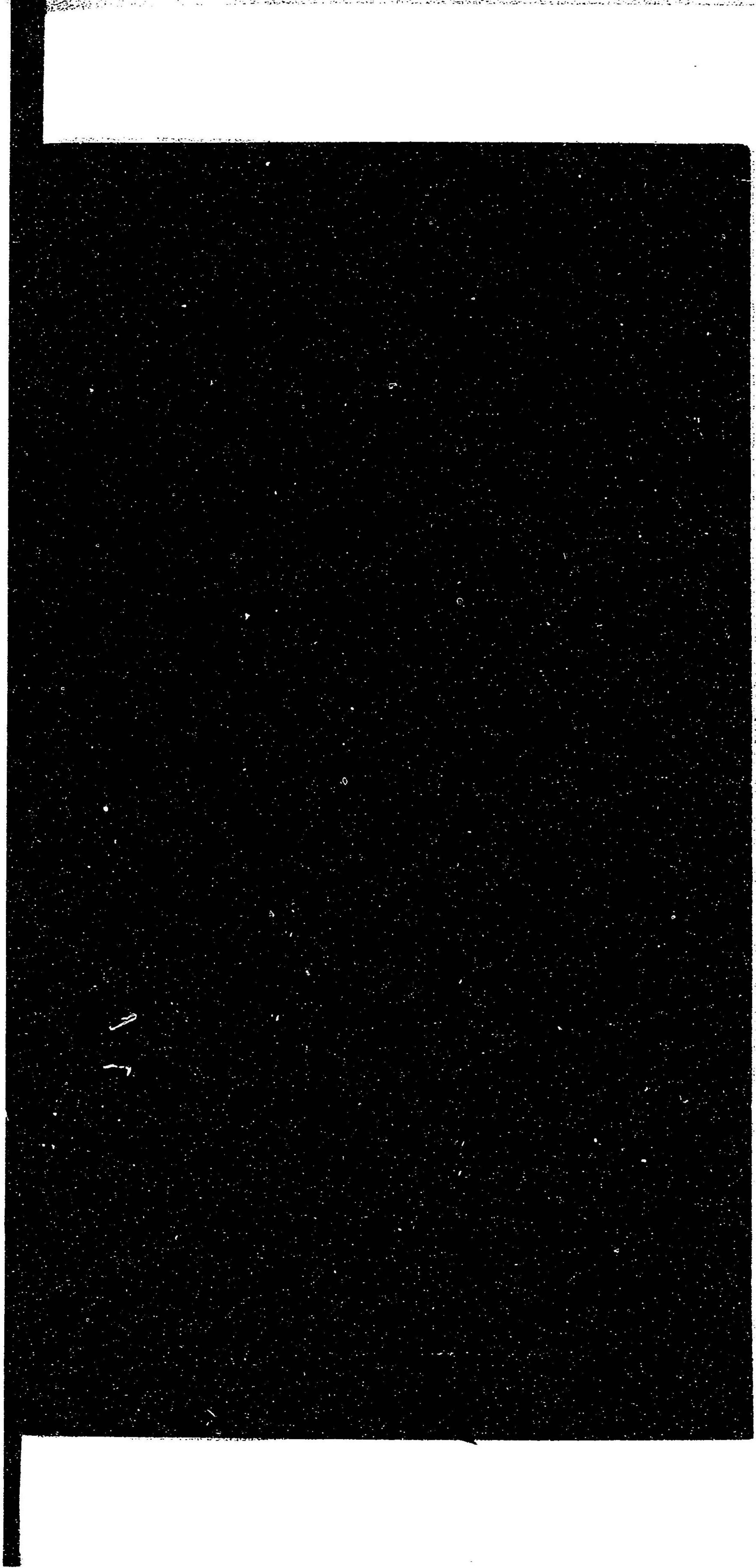
發行所

東京市日本橋區本銀町三丁目八番地
盛 林 堂
電話本局三六六九番
振替口座一八四六番

不 許
製 復

賣 捌 所 全 國 各 書 肆

270
18



049630-000-5

特61-807

日本歴史及年表

教科研究会／編

M45

BEM-0333

